



その年の6月  
幼稚園の  
保母をしてきた  
藤家婦美子と  
結婚



絵は  
見たとおり  
描くものでは  
ない



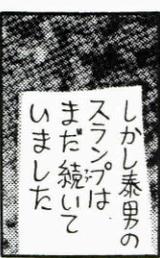
一度自分の  
心の中で  
転換して  
自分の思いを  
現すことが  
大切である



下関高女で  
泰男は  
上手に描くより  
のびのびと描いた  
絵をほめた



いきなり  
四コマ漫画を  
描かせたり  
コラージュなどの  
技法を教え  
ウランクヤ  
ゴッホについて  
熱心に語ったりも  
しました



しかし泰男の  
スランプは  
まだ続いて  
いました



そんなある日  
国画会の先輩  
庫田翠から  
俵屋宗達を  
教えられます  
こんな人が  
日本に  
いたのか



俵屋宗達  
江戸初期の画家  
絵巻物などの  
技法を消化し  
大膽な装飾化を加え  
水墨画にも斬新な面を  
開く



いつまでも  
ヨーロッパ的なものを  
ふききれなかった  
泰男にとって  
宗達を教えられた  
ことがスランプから  
抜け出すきっかけ  
となりました



東洋画には  
我々の血が共鳴する  
何かがある



いくら洋画に  
見なれども  
どこかどこか  
違和感がたまたま  
くるとの  
逆けるのは  
避けられない



つまらないと思っ  
東洋画でも  
どこか安らぎを  
感じさせ  
るところが  
ある



この二つを  
融合させたい  
というのが  
私の願いだ



東洋画と  
西洋画の  
違いの二つは  
余白にあると  
思う



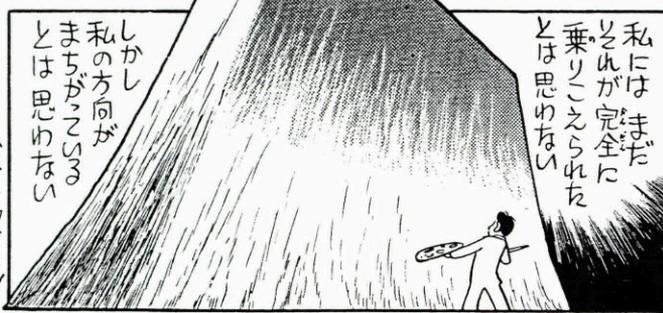
カッチリ  
描きまわした  
西洋画のバックは  
二つの解釈が  
ないが...



東洋画の余白は  
見る人次第で  
どうにもなる



思想に例をとれば  
アリストテレスの  
哲学と  
禅問答の  
違いのような  
ものがある



私にはまだ  
それが完全に  
乗りこえられ  
とは思えない

しかし  
私の方が  
まががこえる  
とは思えない



描かれた余白  
なくこそれ自体  
自己矛盾である  
ここに二つの  
大きな壁がある



余白の問題二つとも  
口で言うのはカンタンだが  
現実にはそれを  
油絵具を使って  
どう処理するか  
というのは  
難しい

へ以下次号へ